

第120回 令和7年11月10日(月)

合理的であることについて。

非効率で合理的でないことは否定されることが多くなっています。年賀状じまいをする人が増えているのもその一つです。年始の挨拶はメールで十分と考える若い世代が増えてきているからだと思います。

私も昨年年賀状は本年をもって終わりにする連絡をいたしました。自分の年賀状も同じですが、年末の忙しいときに無理やり書いているのが分かる年賀状が増えてきたことが原因です。もらうと逆に申し訳ない気持ちになってしまうので止めることにしました。

引退された方でお時間があったたくさん近況報告をしてくださる方もいます。そのような方には引き続き年賀状のご挨拶を継続しようと考えています。

合理性を求めすぎるとやがて空虚な社会になっていきそうな気がします。一見無駄に思えるような年中行事に季節の移ろいを感じる大事な要素が含まれていたりもします。数少なくなった年賀状はなるべく印刷ではなく手書きで送ろうと思っています。

学校など教育の世界には古い慣習が残っていることもあります。合理的ではなさそうなこともありますが、実は大事な本質が含まれていることがあります。

日本人は混んでいるお店や災害が起きて配給をもらうときなど、必ずきちんと整列して順番待ちをします。海外の映像を見ると混んでいるお店の前に群衆が群がっていたり、配給車に我先に飛びついたりするのを見ることがありますよね。

このきちんと並んで順番を待ったり、時間を正確に守ったり、呼ばれたら返事をしたりするのは「当たり前」ではありません。このようなことができていない外国はたくさんあります。

電車が正確に到着する国のほうが珍しいのです。

これは根本に「教育」があると考えています。小さいころからこのような習慣を当たり前のように教わってきた日本人の誇るべき国民性だと思っています。

生徒の時には「うるさいな」と思ってしまうこともたまにはあったかもしれませんが、そのような教育が本当に大切に、生きるうえでのルールがしっかりしていることで社会の秩序が維持されているということをもう一度考えるべきなのかもしれません。

AIにはこのような教育をすることができないのではないかと考えています。